

平和への願いを 次世代に受け継ぐために

平和の尊さについて考えてみませんか

☎秘書広報課 ☎ (93) 1112

富里市は昭和 59 年 9 月に、核兵器の廃絶と世界の恒久的な平和を祈念して「非核平和都市」を宣言しました。昭和 20 年から 75 年が経った今、国民の大半が戦争を知らない世代となり、戦争の記憶が風化しつつあります。人の心に悲しみと苦しみを与えた戦争の愚かさ、そして、平和に暮らしている今の生活がどんなに大切なものか、この機会に考えてみませんか。

平和を願い黙とうを 今、改めて問う、かけがえのない1分間です。

先の大戦で亡くなった多くの方々を追悼し、また平和を祈念するため、8月15日（土）に日本武道館にて、戦没者追悼式が行われます。

第9回平和を考える作文コンクール

市では、次世代を担う子どもたちに平和の大切さを考えてもらうため、市内小学6年生～中学3年生を対象に、「平和を考える作文コンクール」を開催しています。第9回コンクールで、市長賞を受賞した田口楓乃子さん、教育長賞を受賞した八木遥菜さんの作品を掲載します。



市長賞受賞作品 平和とは何か

富里小学校 6 年 田口楓乃子さん（受賞時の学年）

夕食作りと、家の片付けと、妹のお世話をして・・・それが終わった母が、じゅうたんにねころがって天井を見ながら言った。「平和だなあ、こんな時間がたくさんあったらいいのに。」「平和」ってなんだろう。「世界が平和になる」ってなんだろう。

日本は昔、戦争をしていた。罪のないたくさんの人達が殺された。たくさんの武器が使われ町や村がなくなってしまう。家族も死んでしまう。テレビで戦争経験者は、戦争はある瞬間から、大切な人と二度と会えなくなることで、世界で唯一ムダな物だと語っていた。戦争なんてなければよかったのに。なければだれも傷つく人がいなかった。でも戦争があったから、今戦争をくりかえしちゃいけない、世界の人と仲よくなろうと思っているし、その時一生懸命生きてきた人たちがいるから今の私たちがいる。戦争がなきゃ私たちは今平和にくらしていないかもしれない。私たちが不便とか、めんどくさいとか、おいしくないとか言っていられない。戦争があったころよりは、すごく楽に楽しくできているし、とっても平和。だいすきな家族ともいっしょにいれる。友達とも仲よく遊べる。考えてみればありがたいことばかりだった。だからこれからは、一生懸命に生きて人たちに感謝しなければならないと思った。

結局「平和」とはなにか。「平和だなあ。」

と、感じる瞬間は人それぞれ違うと思うけど、大好きな人とずっと一緒にいられて争わず相手のことを考えていれば平和にすごせると思うし、性別や人種、国境に線びきせず、その人達のありのままを受けいれられたら、戦争のような争い事はなくなるんじゃないかなと思った。これからも、自分も自分のまわりの人も平和になれるように、自分にできることをやっていきたい。また世界が平和に仲よくなれたらいい。

教育長賞受賞作品 平和について

七栄小学校 6 年 八木遥菜さん（受賞時の学年）

私は、昔、日本がたくさんの国と戦争をしていたことを知りました。そのなかでも特に広島で起こった「原爆」が印象に残っています。

広島に原爆が投下された日は、1945 年 8 月 6 日です。世界で一番最初に原子爆弾が落とされました。「リトルボーイ」という種類の爆弾が落とされ、それによって、まちは一瞬で焼きつくされ、たくさんの人々が命をおとしたそうです。14 万人以上の人々が亡くなったなか、かろうじて命が助かった人達でも、やけどや傷だけでなく、その後の放射線の影響で苦しんでいる人が大勢いることを知り、戦争が人々に与えるものは、家族を失った悲しみや、人生の目標が断ち切られた辛さだけでなく、その後の生活に何年にもわたり、さまざまな障害を引き起こし、被爆者の健康を現在もおびやかしながら続けていることだと知りました。

たった一発の原子爆弾が広島をまちは一瞬で焼け野原にしたなか、なぜ原爆ドームだけが今もまだ残っているのか不思議に思い、昨年私は、広島に原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは、爆心地からおよそ 160 メートルの至近距離で被爆しましたが、爆風がほとんど上方向から垂直に働いたため、中心部は奇跡的に倒壊をまぬがれ、今もまだ残っているそうです。資料館では、初めに女の子や大人の人の服が血まみれになり、溶けてしまっているのを見ました。これは、原爆が投下された時に火が雨のように降ってきた影響で服に火がつき、やけどを負ったときに血だと考えられます。私は、女の子の服や大人の服などを見て、こんなに服が溶けるほど熱かったんだなとかわいそうになりました。

次に、空しゅうの様子をわかりやすく表した映像を見ました。雨のように火が、体や建物に降ってきていました。体に火がついた人は、水を求め原爆ドームと平和記念公園との間を流れる元安川に飛び込み、少しでも体の熱さを冷まそうとしたそうです。資料館が建てられた理由についても調べました。資料館が建てられた理由は、平和に対する強い願いや被爆者への冥福、また原爆の悲しい現実を後世に残すためだそうです。この資料館が建てられたことで、戦争を直接経験していない私達は「平和」「戦争の悲しさ」について学び、争いのない平和なときがこの先ずっと続いてほしいという気持ちになると思います。

広島で起こった「原爆」について調べたことによって、今の暮らしがどれだけ幸せなのかということを考え直すことができました。戦争一つで、たくさんの人々の命が奪われてしまいます。これからの未来に戦争という悲しい出来事が二度と起こらないように、学校の社会科で学習したことや広島に行って学んだことを多くの人に伝えていくことができると思います。平和は私達で創るものだと思います。今後戦争について考える機会があればもっと詳しく調べてみたいと思いました。今、当たり前のように生活していることに感謝をし、これからも幸せに暮らしたいです。

「ぱっぱかだより」をご覧ください。なことはありますか？

☎高齢者福祉課 ☎ (93) 4981



住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、住民による助け合いの活動を広げるための「生活支援体制整備事業」を実施しています。この活動をより多くの皆様に知っていただくため、広報誌「ぱっぱかだより」を定期的に発行し、市内公共施設や市内主要店舗に配置しています。

富里市更生保護女性会は見守り活動を行っています

☎社会福祉課 ☎ (93) 4192

富里市更生保護女性会は、子供たちの登下校時の見守り活動や、子供たちの日常生活の安心安全のため、犬の散歩やウォーキング、花の水やりをしながらといった「ながら見守り」を基本とした見守り活動をしています。

●富里市更生保護女性会とは
女性の立場から犯罪や非行少年の福祉更生に協力し、地域の浄化活動を行い、犯罪のない明るい社会を建設することを目的としたボランティア団体です。

